

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年6月15日（月）

2 確認箇所

- ・放射性物質分析・研究施設第2棟の建設地（図1）
- ・ブルータンクエリアA（図1）

3 確認項目

- （1）放射性物質分析・研究施設第2棟の建設工事の状況
- （2）ブルータンクエリアAの状況

4 確認結果の概要

（1）放射性物質分析・研究施設第2棟の建設工事の状況

日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）では、福島第一原子力発電所の廃止措置に向けた、燃料デブリ等の性状把握に資する分析を行う施設として、令和7年3月31日から発電所構内に放射性物質分析・研究施設第2棟（以下「JAEA第2棟」という。）の建設工事に着手している。

今回、当該工事の進捗状況について確認した。（前回確認：令和8年5月18日）

- ・前回確認時と比べて、2階における床面のコンクリート打設のほか、地下階における空調設備の設置や壁のコンクリート打設等、建設工事がさらに進められていた。（写真1）
- ・現場では、侵入防止や段差注意等の安全対策に関する掲示のほか、熱中症対策に関する掲示がなされており、作業安全に関する注意喚起がなされていた。（写真2）

（2）横置き型ブルータンクの保管状況

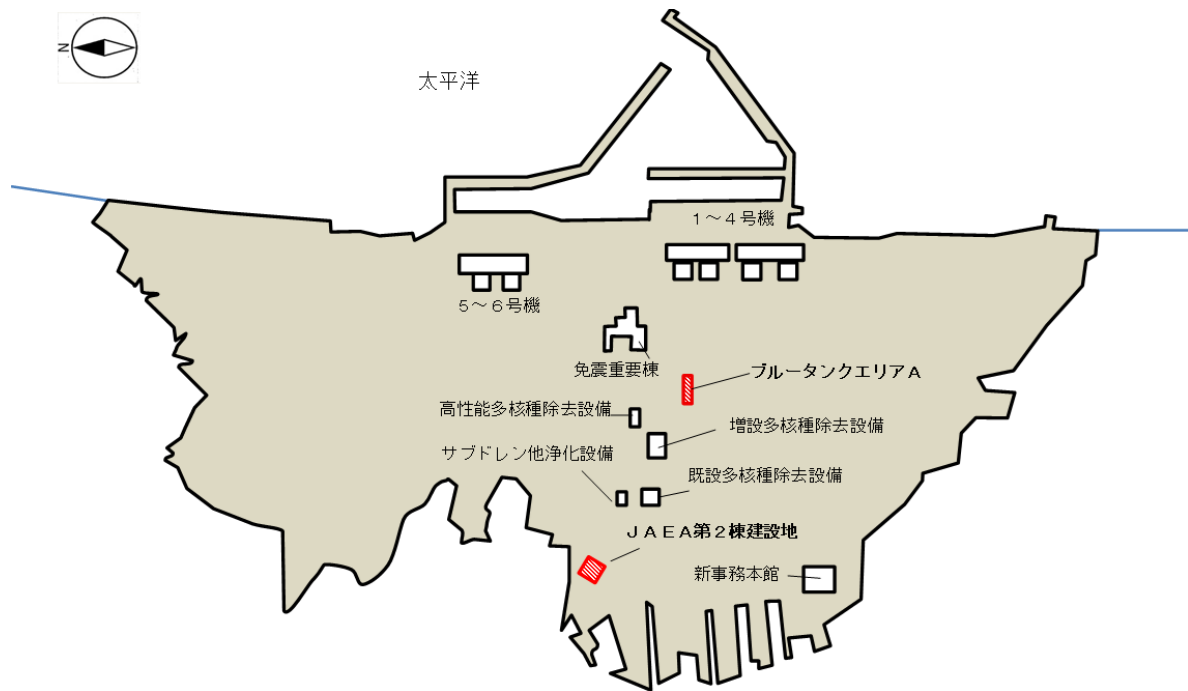
東京電力は、横置きタンク（以下「ブルータンク」という。）に、震災直後に建屋滞留水を処理した水を貯留していたが、容量が小さいことから、運用を停止した。これらブルータンクは、水抜き後、発電所構内4か所に、計367基が仮置きされている。

なお、ブルータンクは令和6年11月から解体試験に着手していたが、令和7年2月に解体試験中の火災により作業を停止した。その後、設備の改修を行い、令和8年1月から当該作業を再開したが、この影響により、解体完了時期は当初計画である令和8年度中から遅れる見込みである。

今回は、このうち、大型機器点検建屋北側にあるブルータンクエリアAの現況を確認した。（前回確認：令和7年8月19日）

- ・ブルータンクエリアは単管パイプにより立入制限が施されていた。（写真3）

- ・ブルータンクは2段積みで保管されており、ボルトや固縛帯（ラッシングベルト）で固定されていた。確認した範囲では、いずれも緩み等の異常は認められなかった。（写真4）
- ・ブルータンク下部の線量を簡易線量計で測定した結果、最大 $9 \mu\text{Sv/h}$ 程度であった。
- ・一部のブルータンクにおいて、表面の腐食が認められたが、内容物の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真5）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）第2棟の外観



（写真1②）第2棟（2階床面北側）の工事状況



(写真1③) 第2棟(地下階)の工事状況



(写真2①) 安全対策の掲示



(写真2②) 熱中症対策に関する掲示



(写真3) ブルータンクエリアA



(写真4) タンクの固定



(写真5) 表面の腐食

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常値は確認されなかった。